

## ■ 全体講評

今回の公開模試は、次の内容を根拠に、学習の成果を適切に測定ができる試験であると評価します。

### ① 午後 I 記述式試験

テーマや業種が広い範囲で出題される特性を踏まえて、問 1 は“営業員用のモバイル端末導入”というよい意味でオーソドックスな問題であること。問 2 は“システム運用業務の監査”という、RPA 導入を絡めたタイムリーな問題であること、問 3 は“衣料品の製造販売業の在庫管理システムの監査”という基幹業務にかかわる問題であること。

以上を根拠に、記述式問題の全体構成に偏りが無いこと。

### ② 午後 II 論述式試験

問 1 は“被監査部門の対応者が変更になったときに備える監査手続”という問題であり、設問ウでは最新の本試験で問われている“監査リスク”にかかわる新傾向問題であること。

問 2 については、“コンプライアンスに対応する情報システムの整備とシステム監査”という、改正個人情報保護法が 2022 年 4 月に施行され、法令への遵守が安定運用された段階で問う、個人情報保護法にかかわるタイムリーな監査を題材に論述できる問題であること。

以上を根拠に、論述式問題の全体構成に、新傾向問題など昨今の情勢が考慮されていること。

次に、午後 I 記述式試験講評、午後 II 論述式試験講評を述べます。

### ■ 午後 I 記述式試験講評

3 問中 2 問の選択になります。問 1 は“営業員用のモバイル端末導入”，問 2 は“システム運用業務の監査”，問 3 は“衣料品の製造販売業の在庫管理システムの監査”です。システム監査技術者試験の午後 I 記述式試験では、このように、テーマや業種が広範囲に出題されています。自分の経験や専門知識を活用できるテーマを選んで解答することが重要です。

問題の選択についてですが、基本的には問 1、問 2 を選択する受験者が多いです。今回の試験で問 3 は、ターンアラウンドタイムについて問う解答しやすい設問を含んでいます。受験者の技術レベルや知識レベルはみなさん異なります。そのため、あなたにとって解きやすい問題が問 3 に出題されるかもしれません。本試験においては、問 3 まで問題の概要を確認するとよいでしょう。

次に、記述式問題における確認項目を列挙して説明します。

#### (1) 監査手続を適切に記述できる

監査手続を適切に表現できなければ、この試験の合格は難しいです。記述式問題において監査手続を問われた場合は、監査手続をしっかりと書けるようにしておきましょう。

#### (2) 問題文を読みながら監査証拠になり得るドキュメントなどを識別できる

問題文を読みながらドキュメントの名称をチェックしておきましょう。

#### (3) 設問文に含まれている、解答を導くための記述を識別することで正答できる

文章が長い設問では、それだけ解答を導くための記述が多い可能性があります。その場合、しっかりと解答導くための記述を識別することが重要です。

記述式問題の点数は、ボーダーラインである 60 点付近に集中します。以上の内容に留意して、解答を作成しましょう。筆者は、本試験において解答時間が余ったら、解けたと思っている解答を含めて見直すことが重要と考えています。

### ■ 午後 II 論述式試験講評

2 問中 1 問の選択になります。問 1 は、“被監査部門の対応者が変更になったときに備える監査手続”，問 2 は、“コンプライアンスに対応する情報システムの整備とシステム監査”です。

基本ができていないと午後 II 論述式試験突破は難しいです。午後 II 論述式試験では、次の点を確認してください。

- (1) 名詞が問われている場合、あるいは、箇条書きのタイトル、以外では、体言止めを使用しない。
- (2) 略字を使用しない。
- (3) 禁則処理を行う。
- (4) “である”調に統一する。
- (5) “お客様”，“いただく”，“～殿”などのていねい語は使わない。
- (6) 問題冊子や解答用紙で指定された方法で問題を選択しているかを確認する。
- (7) 解答冊子における、設問イやウの論述開始箇所を確認する。
- (8) 「実績と実積」，「購買と購売」，「概要と概用」，「相談と想談」，「当該，当核」，「部門，部問」などの誤字がないかを見直す。

システム監査技術者試験の午後Ⅱ論述式試験では、出題範囲が広いために、ポイントを絞った事前学習が難しいです。まずは、正しく**監査手続を記述**できることが重要です。

基本的な論述の仕方ですが、論述における確認すべき点を挙げておきます。

- (1) **受験者が書きやすいのではない**、採点者が採点しやすい**設問文に沿った**章立てをする。
- (2) 採点者が採点しやすいように、**設問文にあるキーワード**を使って論述する。
- (3) 設問文だけを見るのではなく、**問題文の趣旨に沿って**論述する。

具体的ではない監査手続が散見されます。実際に自分が、誰かから監査手続を指示されて、その監査手続を実施できるように、具体的に表現することが重要です。

## ■問題ごとの午後Ⅰ記述式試験講評

### 問1 営業員用のモバイル端末導入

問題文の記述の粒度に合わせて解答を作成するようにしましょう。具体的には、例えば設問1において、“受注データが二重に送信された可能性があるから”などと解答できますが、この解答については不正解としました。理由は、〔システム監査の実施〕(1)において、既に二重送信について記述されていること、及び、設問文に“システム監査人がさらに調査を行おうとしたのは”とあるように、二重送信の調査にかかわる理由が問われているからです。

設問で“理由”を問われた場合は“～から”などとなる**解答を作成**するようにしましょう。

さらに、**問題文にあるキーワードを解答に盛り込む**ようにしましょう。

#### 【講評】

##### [設問1]

設問では理由が問われているので、“～から”など理由を表現する語尾にしましょう。

##### [設問2]

原因として、“プログラムのバージョンが低いから”、“プログラムを更新しなくても動作するから”という旨の解答が散見されました。キーワードである“「更新必須」のフラグ”を含まない解答は、厳しいですが不正解としました。

監査証拠として、共通データの配信記録や個別データの配信記録を指摘した解答が散見されました。プログラムの配信記録については、〔モバイル端末のプログラムの更新〕に“プログラムの配信記録”と記述されているので、厳しいですが、共通データの配信記録や個別データの配信記録を指摘した解答については不正解としま

した。

##### [設問3]

“サーバの抽出プログラムを起動していない”旨の解答が散見されました。問題文にある「対応テーブル（以下、対応テーブルという）を使用してサーバの抽出プログラムで営業員別に生成される」という記述から、データの抽出時に対応テーブルを参照していると考え、厳しいですが不正解としました。

##### [設問4]

モバイル端末の使用率の違い、や教育内容の違いなどを基に、簡潔かつ的確に確かめるべき事項を指摘するとよいでしょう。

#### 【採点基準】

##### [設問1]

解答例の趣旨に合った解答であれば10点。その他は、基本的に0点。

##### [設問2]

原因：“更新必須フラグ”を必須とし、なおかつ、解答例の趣旨に合った解答であれば6点。その他は、基本的に0点。

監査証拠：各解答例の趣旨に合った解答であれば各4点。その他は、基本的に0点。

##### [設問3]

“対応テーブル”、“所属営業所番号”の2項目を必須とし、なおかつ、解答例の趣旨に合った解答であれば10点。その他は、基本的に0点。

##### [設問4]

二つのうち一つは、教育内容の違いに言及していること、残りの一つは、使用率の高低に言及していることを必須とし、なおかつ、解答例の趣旨に合った解答であれば各8点。その他は、基本的に0点。

### 問2 システム運用業務の監査

設問1は、“作業量”、“要員数”、“対応窓口者”など、問題文にあるキーワードを使って解答しましょう。

設問4は、解答条件は設問文ではありません。**問題文にある解答条件にも着目して正解を導く**ことも重要です。

#### 【講評】

##### [設問1]

空欄a：高い正答率でした。

空欄b：“対応窓口者”を必須としました。このキーワードを含まない解答は、厳しいですが不正解としました。

##### [設問2]

空欄c：“障害”を使っている解答が散見されました。厳しいですが、“システム障害”を含む解答だけを正解としました。

**[設問3]**

趣旨が合っても“最繁忙”を含まない解答は、半分の部分点にしています。

**[設問4]**

問題文にある解答条件にも着目して正解を導くようにしましょう。この設問では、問題の〔監査部長からの指示〕(2)にある“価格更新が適切に行われないケースに備えた対応に関する監査手続”のうち“備えた対応”に着目して解答を導きます。

**[設問5]**

高い正答率でした。

**【採点基準】**

**[設問1]**

空欄 a：“作業量”と“要員数”の二つを必須とし、なおかつ、解答例の趣旨に合った解答であれば7点。その他は、基本的に0点。

空欄 b：“対応窓口者”を必須とし、なおかつ、解答例の趣旨に合った解答であれば7点。その他は、基本的に0点。

**[設問2]**

空欄 c：“システム障害”を必須とし、なおかつ、解答例の趣旨に合った解答であれば9点。その他は、基本的に0点。

**[設問3]**

“最繁忙”を必須とし、なおかつ、解答例の趣旨に合った解答であれば9点。“最繁忙”を含まない、解答例の趣旨に合った解答であれば4点。その他は、基本的に0点。

**[設問4]**

解答例の趣旨に合った解答であれば9点。その他は、基本的に0点。

**[設問5]**

解答例の趣旨に合った解答であれば9点。その他は、基本的に0点。

**問3 衣料品の製造販売業の在庫管理システムの監査**

この問題では、設問文にある解答条件を満たす解答を作成することが重要です。具体的には、設問2の“棚卸しリストを改善するとしたら”が該当します。設問条件を満たさない解答は、部分点がないと考えてください。

設問2は、“棚卸しリストを改善するとしたら”など設問の条件を確認するようにしましょう。

設問4は、レスポンスタイムとターンアラウンドタイムの違いが問われているなど、正解を導きやすい設問です。本試験は、時間管理を徹底して、全ての設問に目を通すとよいでしょう。

設問5は、問題点を問う設問なので対応策を中心に解

答を作成しないようにしましょう。

**【講評】**

**[設問1]**

商品に付けられた“バーコード”を必須とし、このキーワードがない解答については、厳しいですが不正解としました。低い正答率の設問です。

**[設問2]**

正答率の低い設問でした。棚卸しにおいてバーコードを読み込ませる旨の解答がありました。“棚卸しリストを改善するとしたら”という解答条件を満たしていないため、厳しいですが不正解としました。

〔在庫管理業務の運用手順〕にある“実際の数量を数えて帳簿上の数量と差異がある場合だけその差分を記入する”という記述を踏まえて、“実際の数量を入力するという改善”という解答が散見されました。改善して実際の数量を入力するようにしても、実際に数量を数えないという問題は解消されないことを根拠に、厳しいですが、差分記入にかかわる改善についての解答は不正解としました。

**[設問3]**

高い正答率でした。

**[設問4]**

高い正答率でした。

**[設問5]**

問題点としてすぐ指摘すべき事項について問われているにもかかわらず、対応策を中心に記述している解答が散見されました。この設問では問題点を指摘するようにしましょう。

**【採点基準】**

**[設問1]**

商品に付けられた“バーコード”を必須とし、なおかつ、解答例の趣旨に合った解答であれば10点。その他は、基本的に0点。

**[設問2]**

改善策については、“帳簿上の数量”あるいは“帳簿在庫数量”を必須とし、なおかつ、解答例の趣旨に合った解答であれば5点。その他は、基本的に0点。

理由については、解答例の趣旨に合った解答であれば5点。その他は、基本的に0点。

**[設問3]**

解答例の趣旨に合った解答であれば10点。その他は、基本的に0点。

**[設問4]**

解答例の趣旨に合った解答であれば10点。その他は、基本的に0点。

**[設問5]**

解答例の趣旨に合った解答であれば10点。その他は、

基本的に0点。

## ■合格に向けての学習

### 〔午後Ⅰ記述式試験〕

公開模試の結果を見直しましょう。それが終わったら、本試験問題などを演習して、得点できなかった設問について、解答解説と自分が導いた解答を比較して、ギャップが生じた原因を分析するとよいでしょう。

### 〔午後Ⅱ論述式試験〕

公開模試の見直しをしたら、弱点を自己診断し、対策を講じましょう。

IPAの試験講評を読むと、本試験においても監査手続を書けない受験者が散見されることが分かります。本試験までに、しっかりと監査手続を書けるようにしておきましょう。

本試験当日のシステム監査技術者試験の午後Ⅱ論述式試験では、見たことがない問題が出題されると考えてください。出題範囲が広いからです。本試験で見たことがない問題に直面しても、焦らないことです。受験会場のほぼ全員がそのように感じているからです。筆者の場合、“しっかりと専門知識を習得しているから大丈夫”と考え、問題文の趣旨をヒントにして論述内容を自分の頭から絞り出すようにしています。

### ■直前の本試験のIPA講評

IPA発表の令和5年本試験の講評を確認して、合格の可能性を上げておくようにしましょう。

### ■本試験での注意

本試験での注意点を次に説明します。

#### (1) 終わった試験を気にしない

記述式試験が終わったらあきらめて帰るという受験者がいます。筆者が担当するセミナーでも記述式試験終了後に帰る方がいました。試験結果を確認すると、実は60点以上で足切りではなかったこともあります。その受験者はヒアリングしたところ、提出した解答用紙の空白部分が多く、採点するまで60点以上とは到底想像できなかったようです。

#### (2) 記述式問題では3問とも、論述式問題では2問とも概要を確認

本試験では、記述式問題では3問とも、論述式問題では2問とも、問題の概要を確認してから、解答する問題を選択しましょう。

#### (3) 知的体力と集中力の適切な配分

本試験は、開始から終了まで長時間行われます。自宅などで行った公開模試で体験した体力の消耗度や集中力の低下などを参考にして、試験開始から午後Ⅱ論述式試験が終了するまで、知的体力を上手に配分して、論述式試験の途中で力尽きないようにしましょう。

#### (4) 論述式試験では設問ウの最後に注力する

設問ウの最後で集中力の低下したような記述が散見されます。その場合、その集中力の低下した記述を読んだから、採点が始まることとなります。最後まで集中して採点者に知的体力をアピールしましょう。

#### (5) 他人事ではない、問題選択の記入漏れや不適切な問題選択

今回の公開模試は、会場受験なし、全て郵送にもかかわらず、記述式問題では“問題番号を○で囲っていない”など、5%ほどが問題選択に関するミスがあります。問題選択の記入ミスは、決して他人事ではありません。筆者も論述式試験において終了直前に記入漏れに気付いたことがあります。本試験では、解答提出時の最終確認を怠らないようにしてください。

合格に向けて、がんばりましょう。

—以上—